

これまでの授業
 黒板、教科書（紙）、
 チョーク&トークの一斉授業



福岡市における「令和の日本型学校教育」の確立を目指して

段階

1stステージ(R2～ R3)
 「GIGAスクール -導入期-」

- ICTを使った授業
- オンライン授業で学びを保障
- 授業以外でもICTを使う

「慣れる」から「使いこなす」へ！
 活用の質のさらなる向上へ！

2ndステージ(R4～)
 「GIGAスクール -発展期-」

- これまでの実践とICTとのベストミックス
- ICT活用の学校格差が解消
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

ICTを使った授業

毎日、授業でICTを活用する教師

- デジタル教科書や資料をプロジェクトで提示
- AIドリルを活用した個別学習、反復学習
- プレゼンソフトを活用した発表



家庭学習では・・・
端末持ち帰りにより宿題も変化

オンライン授業

- コロナ不安・不登校の家庭、ステップルーム、院内学級、専門家等と教室を繋ぐ。



1日の最大人数 **42,151人**

授業以外での活用

- いじめゼロサミット2021 本部会場と全小中学校を接続するオンライン会議を実施

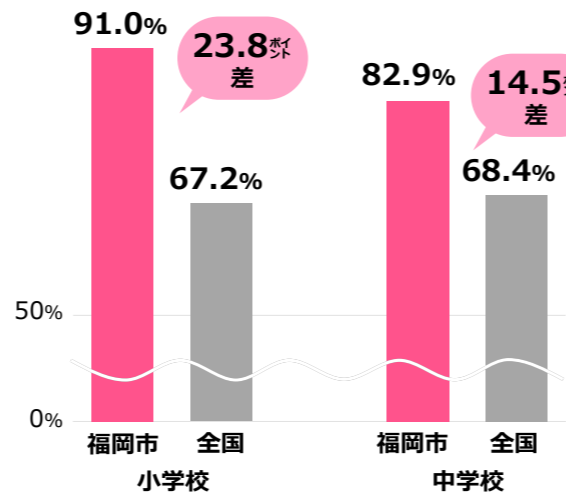
約7万人が
 同時参加！



- 生活習慣・学習定着度調査をCBT化（オンライン化）紙の調査から、1人1台端末を活用した調査方法へ転換
 → 児童生徒の**学力・生活習慣のデータ**が蓄積

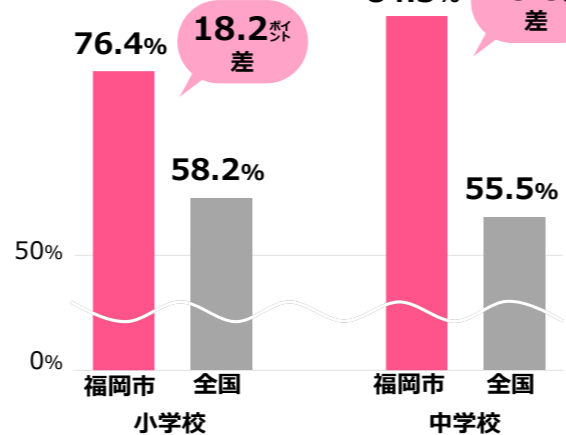
教師 プロジェクト等ICT機器の活用（授業）
R4全国学力・学習状況調査結果より

ほぼ毎日の活用



児童生徒 1人1台端末の活用（授業）
R4全国学力・学習状況調査結果より

ほぼ毎日の活用



授業での
 日常的な活用が定着

これまでの実践 と ICT の ベストミックス

これまでの実践

- 個別のサポート
- 教師の個性を生かした授業展開
- 子どもの個性に応じた指導

教師の人間力・調整力

ICT

- 学校課題や児童生徒の特性にフィットしたICTの活用
- 学年・学校別、習熟度別での活用

教師のICT活用指導力

子どもの学びを支える伴走者としての教師

主体的・対話的で深い学びを実現する授業へ

教師のICT活用指導力向上

校内研修

- 各校のICT推進リーダーを中心とした校内研修の充実
- OJTの充実

教育センターでの研修

- ICT推進リーダー研修の充実
- ICT指導力向上研修の充実

R4nd～

ICT活用事例創出

事例創出

- ICTを効果的に組み合わせた授業改善
 →授業におけるICT効果を最大限に引き出す場面の抽出

事例発信

- ICT活用推進モデル校で組織的な研究体制構築
 →好事例を全市の学校に発信
 （授業公開・協議会、事例集及び動画作成）

R4nd～

教育ビッグデータ活用調査検討

- 教育データ活用のロードマップ（方向性・工程）を策定
 - ・データやシステムの現状分析
 - ・新規に収集するデータの検討
 - ・AI等による分析方法の検討

R5nd～

データ駆動型への転換

- ロードマップに沿って、システム構築やデータ収集を開始

具体的な取組み

社会の変化に伴う
教育のパラダイムシフト

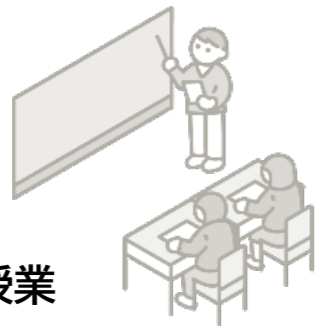
チョーク&トークの一斉授業

多様性を尊重し合い、学ぶ意欲を高める教育へ
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実へ

学びの改革が求められる今、教師の役割は、子どもの学びを支える**伴走者**へ

「正しい内容」を伝え教えることに注力した チョーク&トークのみの授業

一律の目標のもとで
一律の内容を
一律のペースで
受け身的な一斉授業



- 個々の教師の力量に左右される
- 子どもの思考の表現方法が口頭と記述に限定される

成果

すべての子どもたちに
一定水準の教育を保障

課題

- 個々の教師の能力への依存
- ミドルリーダー層の空洞化と教師の授業力差の拡大
- 子どもたちの多様化への対応

子どもの 主体的な学びの サポーター



学習動画やAIドリル
と
個別支援

すぐれた学習動画による指導の均質化やAIドリルによる一人ひとりの理解度に応じた繰り返しの指導によって、学習内容の定着を促進する。

TT*や机間指導
による
個別支援

一人ひとりの学習履歴(データ)を十分に活用して、複数の教員で支援するなど個に応じた指導により、個々の可能性を最大限に引き出す。

※TT(チームティーチング)
→学級を複数の教師で指導する体制

子どもと共に学び合い、共に模索することによって、子ども一人ひとりの未来を紡いでいく
子どもの学びを支える伴走者としての教師

子どもの 協働的な学びの ファシリテーター



学習動画等の教材
を使って
協働的な学びへ

動画を見て自分の思いや考え方をまとめ、それを基に全体で交流し、一人ひとりが新たな意味や考えを創り出すことができるよう助言する。

プレゼン・表現物
をつくって
協働的な学びへ

調べたことや考えたことをプレゼンなどで表現し、それを基に他者に伝え、自分の考えをより一層確かに行うことができるよう助言する。

知識及び技能の習得

学びに向かう力、人間性等の伸長

思考力、判断力、表現力等の向上

Well-being（ウェルビーイング）とは

身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、人々の満足度や充実、幸せなどを表すもの。

市 R4.2月 令和4年度市政運営方針

多様な豊かさを感じられる、市民一人ひとりのWell-beingを大事にするまちづくりを進めてまいります。

国 R3.6月 教育再生実行会議（第12次提言）

一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるWell-beingの理念の実現を目指すことが重要。

国 R4.6月 骨太方針2022

多様な子供たちの特性や少子化など地域の実情等を踏まえ、誰一人取り残さず、可能性を最大限に引き出す学びを通じ、個人と社会全体のWell-beingの向上を目指す。

児童生徒・教職員アンケート まずは、現状把握！

7月実施

7～8月実施

全児童生徒（小1～中3）約12万人 市独自の「生活習慣調査」で実施

教職員 約1万人 「ストレスチェック」にあわせて実施

※ 国の「全国学力・学習状況調査」は、小6・中3を対象

児童生徒アンケート結果（R4.9月）

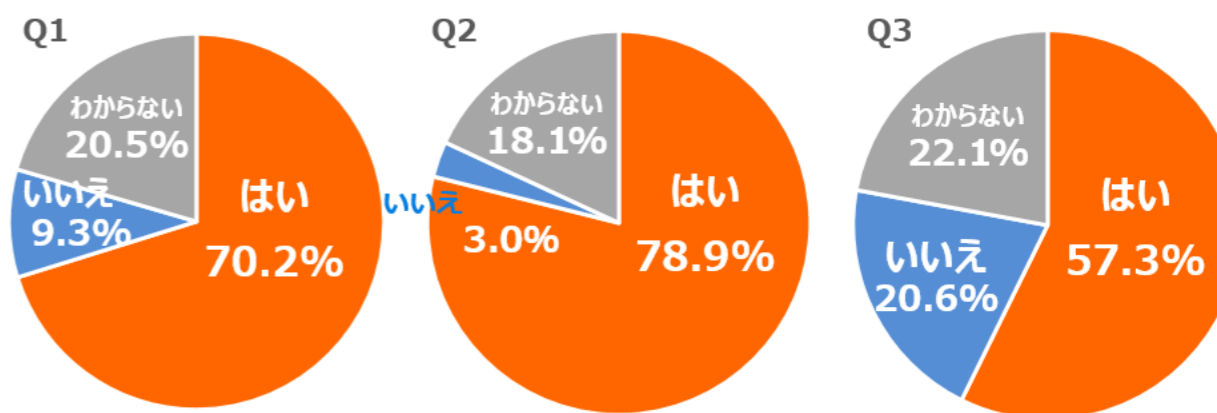
「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童生徒の割合

質問項目	肯定的回答の割合 (%)		
	全体	小学校	中学校
学校に行くのは楽しいと思う	85.2	85.9	84.5
自分には、よいところがあると思う	82.5	84.0	81.1
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う	87.3	86.3	88.3
将来の夢や目標をもっている	79.2	86.2	72.2

質問項目（小1～小3を除く）	肯定的回答の割合 (%)		
	全体	小学校	中学校
人の役に立つ人間になりたいと思う	95.5	95.5	95.5
友達と協力するのは楽しい	94.2	93.9	94.5

教職員アンケート結果（R4.9月）

- Q1. あなたは、日々の仕事に、喜びや楽しみを感じていますか？
- Q2. 自分の仕事は、人々の生活をより良くすることにつながっていると思いますか？
- Q3. 自分の仕事や働き方は、多くの選択肢の中から、あなたが選べる状態ですか？



教職員のWell-beingの向上にむけて

- 教職員の「11時間の勤務間インターバル」の徹底や「男性教職員の育児休業100%」を推進
- さらなる学校の働き方改革の推進により、教員が子どもと向き合う時間を確保できるようソフト・ハード両面からサポート
 - ・部活動指導員の増員
 - ・デジタル採点システムの導入 等
- 子どもと向き合う時間を確保し、さらに子どもたちに深く関わることで「子どもたちから信頼される教員」を目指す

児童生徒のWell-beingの向上にむけて

- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による教育相談・支援体制の充実
- すべての子どもたちが主役として参加し、自らの学びを深めることができる授業の実施

